

高温予想！胴割発生リスク高！ 早めの刈り取りと適切な乾燥・調製を

－ ここがポイント －

- 1 出穂期後 25 日間は飽水管理を徹底
- 2 ほ場の状況（特に出穂）をよく確認し、適切な作業計画を立てる
- 3 黄化籾の割合から収穫適期を判断し、高温年は 2 日程度早く刈り取り
- 4 籾すり機の調整と適正な使用により籾混入等を防止

1 今後の天気（8月4日から9月3日までの見通し：新潟地方气象台 8/2 発表）

気温が高い確率が 70% となっており、注意が必要。

・気温	： 低い 確率 10%	平年並の確率 20%	高い確率 70%
・降水量	： 少ない確率 40%	平年並の確率 30%	多い確率 30%
・日照時間	： 少ない確率 30%	平年並の確率 30%	多い確率 40%

2 出穂期後 25 日間は飽水管理で品質向上

- (1) 出穂期後 25 日以上（登熟期間が高温なら 30 日以上）は飽水管理を継続する。
 （早期落水は登熟不良を招き、また、下葉の枯れ上がりや倒伏を助長。）
- (2) 特に用水量が少ない地域では掛け流しをしない。
- (3) 異常高温やフェーン現象が予想される場合は、あらかじめ湛水する。
 （ただし、長期間の湛水状態は厳禁！）
- (4) 成熟期が遅い品種は、最終通水日にしっかり湛水する。

3 主な品種の出穂期と収穫適期のめやす（8月8日現在）

こしいぶきの出穂期は平年比 1 日、コシヒカリは 3 日早まった。

表 主要品種の平均的な出穂期及び収穫適期

品種	出穂期	収穫適期(出穂期後の 日平均気温の積算値)	収穫適期（アメダス地点別）		
			新潟	新津	
新潟次郎	7月19日	1,000℃	8月25日	8月26日	
早生	五百万石	7月22日	8月27日	8月28日	
	わたぼうし	7月24日	8月29日	8月31日	
	ゆきん子舞	7月25日	8月30日	9月1日	
	こしいぶき	7月26日	8月31日	9月2日	
中生	こがねもち	7月30日	9月6日	9月8日	
	コシヒカリ	8月3日	9月11日	9月13日	
	コシヒカリ(5/10植)	8月4日	9月12日	9月14日	
晩生	新之助	8月9日(見込)	1,050~1,100℃	9月21~22日	9月22~24日

- ※1 収穫適期は 8 月 7 日までは本年値を、それ以降は平年値を用いて計算した。
- ※2 出穂期は、早生・中生は 5 月 5 日植え、新之助は 5 月中旬植えを想定。
- ※3 収穫適期は今後の気象により変動する可能性がある。

4 収穫の留意点

- (1) 高温により品種間の出穂期差が小さいことから、収穫作業競合の恐れがある。ほ場の状況（特に出穂）をよく確認し、適切な作業計画を立てる。
- (2) 出穂後の日数や日平均気温の積算値を参考に、実際に黄化籾の割合が85～90%になった頃に収穫する。
(茎葉の色だけで収穫適期を判断しない。)
- (3) 高温年は、胴割粒や基部未熟粒が発生しやすくなるため、収穫適期より2日程度早めに刈り取る。
(日平均気温の積算値より50℃程度早めの時期)
- (4) 収穫適期頃の籾水分が低い状態でフェーン現象に遭遇すると日を追って胴割粒率が高まるので、すみやかに刈り取る。
- (5) 墨黒穂病や稲こうじ病が発生したほ場は、稲体が乾燥している状態で収穫し、無発病ほ場とは別に乾燥する。

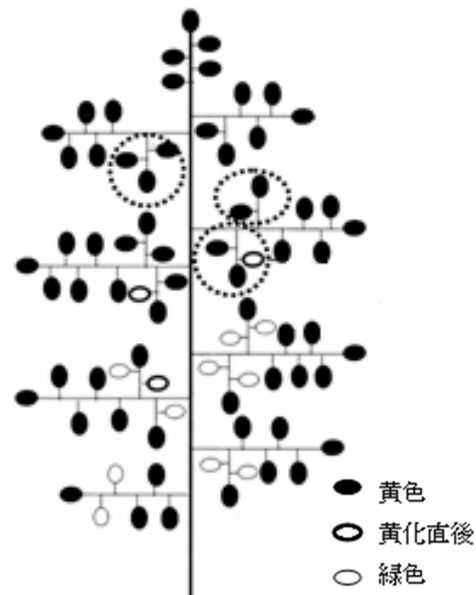


図 収穫適期の籾の黄化状況
(籾黄化率 85～90%)

5 適正な乾燥

- (1) 生籾は収穫後なるべく早く乾燥機に張り込み、通風する。毎時乾燥水分は0.8%以下とする。
- (2) 籾水分が高い場合は、送風温度を低めに設定する。
(初期水分28%の場合は乾燥温度を40℃以下、24%の場合は50℃以下に設定)
- (3) 立毛胴割れが見られる場合や収穫時の籾水分が20%以下の場合は、通常の送風温度より5～10℃低めの送風とし、毎時乾燥水分を0.5%以下とする。
- (4) フェーン現象時の収穫などで籾水分のばらつきが大きい場合は、籾の張り込み後数時間程度の通風乾燥を行う。その後半日程度貯留して水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行う。
- (5) フェーン現象時に乾燥を行う場合は、日中は常温の通風乾燥とする。加熱乾燥は夜間に行い送風温度を通常より低めにする。

6 適正な調製

- (1) あらかじめ籾すり機のゴムロールの摩耗状態を確認する。ロール間隔は0.8～1.2mm程度とし、脱ぶ率が80～85%になるように調整する。
(籾混入による格落ちは人為的ミス！)
- (2) 籾すりは、籾の温度が常温近くまで下がってから行う。
- (3) 1.85mm以上のふるい目を使用し、適正な流量で選別する。
(未熟粒や被害粒が多い場合は必要に応じて1.9mmのふるい目や色彩選別機を利用する。)

7 新之助の管理（新之助研究会の方へ）

- (1) 予防粒剤を使用していない場合、出穂期が早まっているので、穂いもち病防除は適期を逃さず実施する。
- (2) 飽水管理の徹底、適期収穫、適正な乾燥調製を行う。

熱中症に注意！

農作業は気温の高い時間帯を避け、こまめに水分と休憩をとりましょう